

地域おこし協力隊 退任のごあいさつ

(任期：平成25年9月1日～平成28年8月31日)

「3年間共に歩んだ 地域の方々に感謝」



三川担当 西野新町 笹川真野寺
担当 西野新町 笹川真野寺

中山間で農地の保全活動をしながら、いづれ佐渡で自ら農業を始めた、そんな気持ちで地域おこし協力隊に応募してはや3年になるうとしています。

農地の保全活動といっても元々農業は素人の身。地域の方々や農業の関係団体などから多くの支援を受け、ささやかながら柿やリンゴ、スイカなどの管理を行ってきました。

農業は経験と知識の積み重ねが重要です。専業ではない3年間の経験だけでは、まだまだ独り立ちするレベルにはなっていませんが、ライフワークとして好きな農業を行いながら佐渡に貢献したい、そのような気持ちでこれからも続けて行きたいと思っています。

一方、この3年間過ごしたのは真野新町の商店街です。佐渡での農的生活をイメージして来た私としては

予想外だったのですが、元々東京の商店街に生まれ育ったので、懐かしい気持ちですぐに溶け込むことが出来ました。始めは気が付かなかったのですが、上に伸びる東京とは違い、奥に長く町屋の造りが残る真野新町の商店街は、歴史の重みを感じさせる貴重なものです。全国どこの商店街も厳しい状態ですが、この貴重な町屋の商店街を保存し活性化するお手伝いをしようと、「真野新町宿町屋再生プロジェクト」に参加し、住民有志の皆さんと共に秋のお茶会などを運営してきました。

海、山、里、街がコンパクトにまとまっているのが佐渡の魅力であり、里山に住む農家にとっても真野新町のような近くにある商店街は大切なものです。私自身も農業を取り組みながら、歴史ある商店街の活性化に関わり続けて行きたいと思っています。

農業について、そして地域について右も左も分からない中で、住民の方々より暖かいサポートをいただき続け感謝するばかりです。これから微力ながらも佐渡のお役に立つことができればと考えていますので、どうぞよろしくお願いします。

「波をかきわけて世界に進む島へ」



地区担当 羽茂地区 澤村明
担当 羽茂地区 澤村明

私は大阪出身で、40歳を過ぎるまで大阪の出版社で仕事をしていました。いろいろな縁から地域おこし協力隊に着任しましたが、羽茂地区は広く、残念ながらすべての集落に関われませんでしたし、手が付けられなかったこともたくさんあります。

活動のなかでは、羽茂に実行委員会を置く本のイベント「ハロー！ブックス」の企画運営や、羽茂温泉を会場にしたイベントや活動のお手伝いが、特に印象に残っています。

また、フランス人写真家シャルル・フレジェさんが平成27年に佐渡を訪れた際、撮影取材の手配や支援を行いました。このときに撮影した羽茂や佐渡の伝統芸能をテーマにした写真展は、東京銀座のエルメス本社で今年開催され（すでに終了）、約2万人の来場者に佐渡の魅力を伝えることができました。この写真展はフランスでも開催されるそうです。

佐渡に住んで感じたことは、佐渡、そして羽茂は豊かで、まだまだ可能性を持っているということ。勝手な私見ですが、グローバル化の荒波に流されず、昔のテレビ番組「ひよっこりひょうたん島」のように佐渡の島だけは波をすいすいかき分けて世界に進んでいける希望の光のタネがたくさんある、と感じます。

「地域おこし」といっても、地域の課題や、そこで一隊員ができる活動はさまざまで、何をどのように活動していくか、試行錯誤するしかありません。ある方の話で、印象に残った言葉があります。「そもそも地域は寝たり起きたりするものではない。人であれば寝ている人を無理に起すことはできない。寝ている人が自分で自然に起きたくなるようにするのが、地域おこしだ」私もこの3年間で寝ている人たちが起きなくなるようなことが少しでもできていればよいのですが。今後は、引き続き羽茂地区に生活の拠点を置いて、着任時に自分の夢として掲げた「佐渡・羽茂を世界に向けて発信する」ことを私なりに実現させていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いします。